



人物記  
Topics  
0

藩の設倉開放と引き換えに  
処刑された義民・白田六右衛門

松平（鷹司）家の家祖・信平が木部（群馬県高崎市木部町）に陣屋を置き、まだ7000石の旗本だった時代の元禄元（1688）年のこと。大干ばつの影響で農村は疲弊しきり、多くの領民が餓死寸前の状況だった。そこで領内の多胡村（高崎市吉井町）の名主・白田六右衛門は、年貢米が保管されている設倉を開放し、米を分け与えて多くの命を救った。



龍源寺（高崎市吉井町）にある白田六右衛門供養塔（龍源寺提供）。

門に対して死罪が言い渡されると、領民の嘆願もむなしくキユウリ畑で斬首に処された。享年24歳だったとされる。

吉井藩